

特定荷主

エネルギー原単位は2006年度比25%増加しました。

荒川化学は、「省エネ法」の特定荷主に該当しており、輸送によるエネルギー消費の減少に努め、実績および次年度の計画を報告するよう定められています。

輸送の効率化、エコドライブ※、低公害車導入の推進などの対策に取り組みましたが、単位輸送量当たりのエネルギー消費量を示す「エネルギー原単位」は2006年度比で25%増加し、原単位削減目標(4%減少)を達成できませんでした。

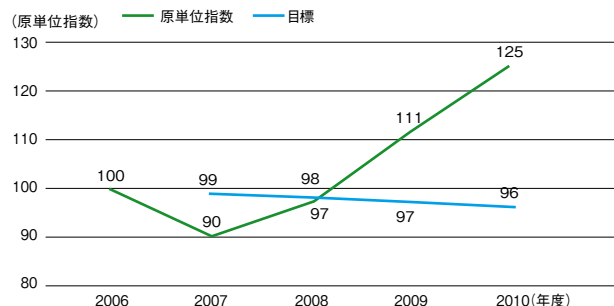
これは、2006年度比で生産量が回復しないことや、特殊な配送(冷凍便など)の増加による積載率の悪化などが要因です。

※エコドライブ:急加速、急減速などをせず、極力燃料を節約する運転方法。アイドリングストップ、デジタルタコグラフ、エコタイヤなど

●今後の取り組み

- ・2011年度は輸送の効率化、エコドライブなどで省エネルギーを推進します。

■輸送に関わるエネルギー原単位



大気汚染防止

高性能な脱臭装置を富士工場にも設置しました。

VOC(揮発性有機化合物)の排出削減や近隣住民への臭気対策として、高性能な脱臭装置を大阪工場に続いて富士工場にも設置しました。

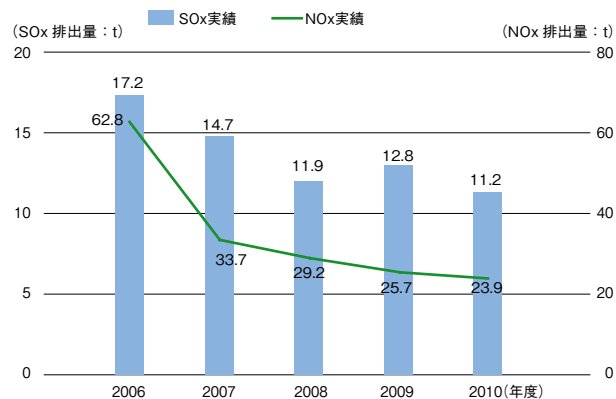
SOx、NOx排出量を減少させる対策として、ボイラー燃料のガス化などの対策を実施し、規制値に比べ十分低い値を維持しており、「規制値遵守」を維持できています。

●今後の取り組み

- ・今後も法規制値を遵守していきます。
- ・VOCの排出削減や近隣住民への臭気対策として、高性

能な脱臭装置の増設をさらに進めていきます。

■SOx・NOx排出量の推移



水質汚濁防止

排水処理の管理に努め、法規制値を遵守しています。

荒川化学グループは水溶性の製品を多く製造しており、それらの製造の際に製造設備やタンクローリーから排出する洗浄水は環境への負荷が大きいため、その処理は重要です。

2010年度においても、排水処理の管理に努めた結果、懸濁物質(SS)、化学的酸素要求量(COD)などの規制値を十分クリアする結果となりました。

●今後の取り組み

- ・排水処理設備の維持に努め、法規制値の遵守を継続していきます。

■COD・SS負荷量の推移

